

るのほな

編集兼発行者

千葉大学医学部

るのほな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1の8の1

千葉大学医学部庶務係気付

電話千葉(0472)22-7171内線208

千葉大学医学部同窓会報 第59号

題字 鈴木五郎

千葉大学長に

香月秀雄教授当選さる



相磯和嘉学長の任期満了に伴う千葉大学長選挙が六月十八日施行され、香月秀雄医学部長が当選された。

香月教授が昭和四十四年六月、学園紛争の最中、当時の川喜田愛郎学長の後をうけて学長事務を取り扱われ、機敏な判断力と敏腕を振られて難局を見事に処理されたこと、かつ四十五年七月までの併任期間中、大学のあり方など根本

相磯学長退官さる

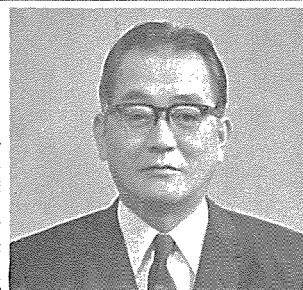
相磯学長は本年七月三十一日、任期満了をもって退職された。昭和十一年卒、十五年助手、翌年講師、十九年助教授と昇進、二十一年腐研教授、三十二年同所長となり、腐研の発展と充実に寄与され四十四年五月以降は医学部に移っ

て当時の学生紛争に対処、四十五年八月以来学長としての大任を果された。専門は食品衛生学で著書論文も多い。医学部では相磯先生を名誉教授に推せんことを決議した。先生の今後のご健康とご発展を心より望むものである。

命題の解決に多くの功績を残されたことはわれわれの記憶に新らしいところで今後の御活躍が期待されている。なお、八月一日付学長就任の感想を次の如く述べられた。

今回の学長選挙に当り、小生をご推薦いただき、また温かいご支援をいただいた方々に厚くお礼申し上げます。勿論小生に託されたお気持は単に医学部のためというより、千葉大学全体の発展に、とのご要望であると理解しております。

香月医学部長が千葉大学長に就任されたため、その後任人事として医学部長選出が行なわれ、横川宗雄教授が決定した。前回同様、教授会、助学会、助手会の各層からの推薦による候補者について、七月十二日、規定に基づいた医学部内の予備選挙が行なわれ、さらに同日午後の教授会による本選挙の結果横川教授が選出されたものである。



横川宗雄教授 医学部長に就任

つぎに、どれ程の試練と苦しみを潜り抜ければならないかを理解していた、きいたと思います。幸い私は多くの尊敬する先輩と良き友人の温かい心に包まれており、それを大きな支えとして重責に懸命の努力を続けて行くつもりであります。

香月 秀雄

香月秀雄学長略歴。大正5年生。昭和16年本学卒。37年教授(肺癌研究施設) 44年学長事務取扱。評議員。46年 付属病院長。50年 医学部長。

医学部長就任は四十八年四月から五十年三月までの期間に次いで二回目になるが、前回の経験に基づいて今後の御活躍が期待される。なお横川教授は学部長就任の感想を次のように述べられた。

医学部長をお引受けするに当りるのほな同窓会々員の皆様に心より御挨拶申し上げます。

現在の亥鼻地区には多くの難問が積まれておりましてその責任の重大さを痛感しております。教授会の一員としての気持で、これまでの経過をふまえて一つづつ解決の道を求めてお役に立ちたいと思っております。学部長はまずが、さし連絡役と理解してありますが、さし当って特に亥鼻地区の環境整備を重要視しております。これは単に自然環境の問題だけでなく、学内全員が教育・研究の場としての環

生物活性 研究所(旧腐研) 亥鼻台に 新築と決る

同窓会諸氏には腐敗研究所と言った方がわかり易いかも知れないが習志野にある生物活性研究所の移転が決定し、医学部構内の現在のテニスコートの一角に六階建のスマートな建物新築されることとなった。秋には着工し来年夏までに移転完了ということになる。連絡道路から眺める景色も一変することになる。目下建築進行中の看護学部建物と共に亥鼻台の構成は急速に変わりつつある。

るのほな同窓会報・編集部

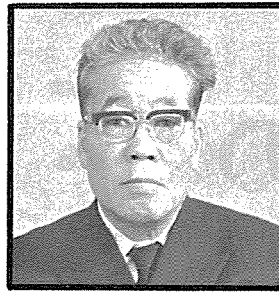
村山智(編集長・薬理) 鍋谷欣市(副編集長・杏林大・外科) 斎藤弘(国立千葉病院) 萩原四郎(腐研) 稲垣義明(三内) 奥井勝二(一外) 金子敏郎(耳鼻咽喉科) 増田善昭(三内) 徳永敏(第三解剖)

横川 宗雄

横川宗雄医学部長略歴。大正7年生。昭和16年台北帝大卒。予研を経て27年本学非常勤講師、31年本学教授。48、50年の間医学部長。

片倉 逸先生逝去さる

元るのほな同窓会常任理事片倉逸先生(昭和11年卒)には去る5月19日銚子市の自宅で他界された。生前故人と最もゆかりの深かった方々のなから次の三氏に弔詞を頂戴した。



るのほな同窓会
名誉会長 鈴木五郎

心からなる親友 故片倉 逸君の霊前に謹んで弔詞を捧げます。終に逝かれたことを5月19日朝承知し、愁嘆限りなる御家族様の哀悼の誠を捧げ御冥福を祈ります。君との交りは長い、殊に過る大戦前後から今迄激動40年変りなき友情のもと、家族ぐるみのものである。今私は改めて君からの軍事郵便を見、応召軍医として南方にまた大陸に軍務に服した君を知る。またあの戦地にもまさる千葉市大空襲をうけた折、私は君と綿貫(現習志野病院長)・田口(故一美先生)西君・その他二三の医局員がたよりであり、惨状も当

のがあります。奥様も健康そのものであり、君安堵して眠られるよう。無事を運んで弔辞とする。

千葉大学長 相磯和嘉
昭士クラス会代表 片倉君

てられぬ負傷者、数百名の救護に挺身された姿を忘れない。また終戦時第一外科医局でラヂオの前に整列して陛下の御書を演説して聴き直ちに敗戦直後の方策をきめ、看護婦の心得等を君から話して貰ったこと、生活一切が不如意な折長男透君を連れて、亀ヶ岡なる私の茅屋に居を共にしたこと等々走馬灯の如くに去来する思であります。縁あつて銚子に開業されたが、君の心はよく市民の心を捕え、思う存分手腕を発揮して、今日の大成したのであります。長生を望んで己まぬのであるが、天寿如何ともな難く、遂に幽明境を異にし、寂寥限りないものがあり、愁傷衷心からお悔み申し上げる次第であります。

惟うに医師会同僚・住民・大学に信を得た者、君の如きは極めて稀である。「したい事をし尽し、思い残すこともない」と申していた由、奥様から聞く、日本に生れた男として特に為すべきを成して、満足の実感の如くであります。透君は今や医師会・大学・国立病院等多数の同僚の強力な支援の下立派に業を継いで、ゆるぎないも

片倉逸君の逝去を悼む

野球部同窓会 松本 胖

あのフアイトに溢れ、元気に満ちて活躍を続けていた片倉君が、昨年来身体の変異を訴えられて静養されていることを聞き、一日も早く快癒して再び元気に姿に接したいものと念じていたにもかかわらず、突然の訃報に接して驚き、かつ残念でたまらない気持ちになった。惜しい人を亡くしてしまつたという無念さと淋しさが強く胸を打つ。

彼とはじめて会つたのは昭和七年四月、弘前高校より本学に進学して野球部に入った時であつたので、半世紀に近い永い付き合いである。当時、彼は瘦弱ではあつたが筋肉質で理想的なスポーツマン

タイプで、肩も強く、足も速く、守備や打撃の技術も秀れていたばかりでなく、練習にも試合にも闘志にあふれて他をリードする態度が抜群であつたため、間もなく野球部の名物男として全部員から尊敬されるようになった。彼のような人物がいたからこそ、わが医科大学野球部でも他の有名一流大学に伍して対等に堂々と技を競いあうことができたと思う。

彼は卒業後第一外科教室に入り診療や研究に多忙な日々を送つていたにもかかわらず暇をみてはグラウンドに姿を見せて熱心に後輩の指導に当たり常に感謝されて

発展に貢献され、野球王国としての銚子の名声を高めたのは彼の功績に負うところが大きかつたといえる。彼の野球において示された根性と熱意と温情にもとづく指導力と統率力は全生活面に生かされ、医業ばかりでなく、多くの社会的な事業や奉仕にまでも巾広く発揮され、各方面から感謝と尊敬を一身に集めつつある時、突然のご逝去は社会における大きな損失であり惜しみても余りあるものと考えられる。しかし、彼の生前の功績と名声は永久に忘れられることなく存続することを確信している。われわれも彼の人生哲学を手本として大いに努力しなければならぬと思つてゐる。

各地るのほな会開かる

るのほな同窓会の支部活動は年を追って充実して来て居り、今年度もすでに四支部の総会があり、それぞれの特長を生かして盛会であつたが、紙面の都合で簡単な記録としてお知らせする。

於銀座東急ホテル、約七十名。本部より相磯学長、香月医学部長、有水(放射線)島崎(泌尿)両教授、さらに埼玉、神奈川両支部の支部長ほか数名の方が参加、市川平三郎国立がんセンター病院長の講演等もあつて内容豊富な会。

中山立三支部長、関哲三幹事)於水戸市「京成ホテル」約三十名。本部より伊藤(二外)近藤(二病)両教授が出席、また筑波大学より牧豊、岩崎洋治、小形岳三郎の三教授が参加されたことが特長。なお丸山秀太郎前支部長も健康を回復されお元気の由。

屋弘支部長、赤星至朗幹事)於甲府市「古奈屋」約二十五名。本部より松本看護学部長、石川眼科教授が出席、久しぶりの集りで地元薬学系の人達、さらに山梨大の方々も参加されたことが特長の。

上川名誠一會長、川上成之幹事)於浦和市「花水亭」約七十五名。本部より伊藤(二外)萩原(脳研)両教授、木下(三内)助教授、東京支部より嶋田會長が参加。學術講演主体ながら全体として和氣霽々。

以上のごとく支部活動は活潑に行なわれているが、東京支部の提唱で近隣のるのほな会同志の交流が盛になりつつあること、および茨城、山梨両支部のように地元大学との接触も進められていることは特筆すべきことである。

◇六月五日、山梨るのほな会(守屋弘支部長、赤星至朗幹事)

◇六月二十六日、東京るのほな会(嶋田宗之會長、内藤徹郎幹事)

◇七月十七日、茨城るのほな会(

北里大学医学部だより

教授 木川田 隆一

早いもので、私が当大学医学部の創設期に赴任してから六年有余がたち、この三月には第一回生を世の中に送りだしました。どうやら、医学部としての形態がととのい、又大学院も認可になって、一



輝夫(昭34卒)、村松準(昭35卒)の三助教、小林豊(昭39卒)、角張雄二(昭39卒)の両講師、矢端幸夫(昭46卒)、三科孝夫(昭46卒)の両研究員(助手待遇)、後藤哲也(昭47卒)、館野純生(昭49卒)

の両病棟医の諸氏です。さらに、私の恩師の齋藤十六先生を客員教授としてお迎えいたしております。

同、一息ついたところです。

当学部内のあるのは同窓会を紹介いたしますと、まず、生理学の加藤正明教授(昭30卒)および移植免疫学の柏木登教授(昭32卒)が若手教授のホープとして、学内外にわたって活躍しております。私自身は、内科学教授として、循環器、腎、血液分野をまとめておりますが、ここには、かなりの同窓会のメンバーが居ります。即ち、徳弘英生(昭24卒)、露崎

お元気で週一回の卒業教育を担当されております。また、臨床病理学と私達の内科を兼任する形で、野呂忠憲(昭34卒)、平沢康(昭35卒)の両助教がおります。その他、矢島義忠講師(内科学・昭39卒)、熊田博子病棟医(内科学・昭48卒)、松山輝男助教(胸部外科学・昭36卒)、島田純一助教(生理学・昭41卒)の諸氏がおります。

この病院の所在する須坂市は、長野県の北部にある県都長野市と千曲川(信濃川上流)をはさんで相接している人口5万の小都市です。主な診療圏は、この郡市と長野市の一部人口8万の地域です。この中核病院として150床を有し内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、神経科領域の診療を行っています。医師11名、薬剤師6名、医療技術員9名、看護婦95名、その他を含め160名の職員が積極的

長野県立須坂病院だより

病院長 森川 不二男



が派遣され、昭26年に私が赴任して来ましたが、27年に産婦人科、30年に内科(第一内科)、33年小児

、北里柴三郎博士が、大正三年に創立した北里研究所を母体として発展してきたもので、生命の科学に携る理科系の総合大学を目標にしており、今迄のところ、医学部の他、薬学部、衛生学部、畜産学部、水産学部および付属施設が育ってきております。北里柴三郎は、もはや、多分に伝説的人物になっておりますが、開拓精神と実行力に富んだ人で、ギリシア語のSophia Kai Epou(叡智と実践)が当大学のスクール・モットーとなっております。医学部におきましても、次々と新しいアイデアが実行に移され、国立大学のスタイルしか知らない吾々にとっては

、初めのうちは、とかく、面喰いまごつくといった事が多かったのですが、最近では、新しい制度にかける希望と、古いものの中にある良さを併せて考慮し判断しようとして心がけております。ここに紹介いたしました若い同窓会の仲間達が、このような雰囲気の中から伸びて行く事を期待したいと思っております。

(筆者は昭30卒)

科が、千葉大より派遣され、医師は全員のはな同窓会員で占めていました。昭29年70床の結核病床、33年に50床の一般病床が増設され、160床になり、又県立高等看護学院が併設されました。

昭43年に現在の新病院に改築されましたが、当時大学紛争等で千葉大よりの医師の赴任が困難となり、外科を除く他の診療科は達次信州大学出身者になって来しました。

現在在るのはな会員は、熊谷信夫(副院長・昭28卒)、鈴木伸典(医監・昭36卒)、永野耕士(昭48卒)、小川清(昭48卒)と私で第一外科出身の5名です。整形外科は千葉より2名の医師が交代で来て頂いております。小児科は現在欠員で困惑しております。元病院勤務医師で現在須坂市で開業されている会員は、横川稔(昭26卒・内科)、田崎裕一(昭26卒・産婦人科)、島田勉(昭31卒・産婦人科)、山上欽也(小児科)、野口徹男(昭34卒・内)の5名がおります。

現在病床数が極めて不足の状態です。長野県政の新5カ年計画の下で、病床の増設、診療科の増設、その他を含めて増築計画中で、270床の病院にして、内容を更に一層充実させるべく鋭意努力中という現況です。

須坂市は上信越国立公園に接し風光明媚、自然環境に恵まれた処です。毎年夏には大勢の在学生が交代で研修に来院して参ります。今後も新進の若い同窓会員の来須を切望してやみません。

(筆者は昭19卒)

千葉大学

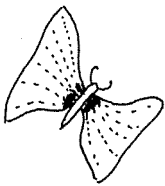
るのほな

三一会記

昭和三十一年度医学部卒業生の同窓会(るのほな三一会)の卒業二十周年を記念する集いが、昭和五十一年五月九日に東京の高輪プリンスホテルで開催された。昨年に続いての同窓会であったが、昨年の同窓会の席上で、来年は卒業二十周年でもあり、全員一堂に会してにぎやかに旧交をあたためようとの提案があり、幹事の志村、小高、鈴木(通)、滝沢、西原の諸君の骨折りで、本年の同窓会開催の運びとなったわけである。

当日は今にも雨の降りそうな生憎の天候ではあったが、各地で活躍中の友が集り、五十名の出席をみた。志村、滝沢君の司会で、各人の現況報告、さらに卒業二十年間アメリカで活躍の中沢君から三一会あての手紙の披露があり、また卒業二十周年を記念してアルバムを編集すること、それには、学生時代の写真部員がこれにあたることなどがきめられた。楽しい集いの四時間は、またたく間に過ぎて、またの日の再会を約しつつおひらきとなった。

(三内・小川道一)



近藤洋一郎教授(病理学第二)

佐藤 壹三教授(神経精神科)

着任す

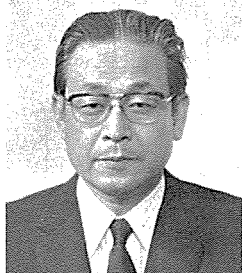
去る三月定年退官された岡林教授、同じく医学部を定年で去り、看護学部長専任となられた松本教授のあとを受けて、それぞれ近藤洋一郎、佐藤壹三の両教授が着任されたので抱負を記していただいた。



このたび岡林 篤先生の後任として、病理学第二講座の担当を拝命いたしました。馬杉復三先生以来、輝かしい伝統をもつ教室を引きつぐことは、大いなる光栄ではありますが、責務の重きを思う時、自身の非力を痛感せざるをえません。教室の発展に肝胆を砕く所存ですが、諸先輩はじめ各位のご支援、ご教示を乞うところ切なるものがあります。

近藤 洋一郎

近藤教授は昭和8年生。33年本学卒、46年助教、46年より47年にかけて米国エモリー大学に留学し、この度去る6月16日付で教授に就任。



今回はからずも、松本教授の後任として、再び母校の教室にお世話になることとなりました。

わたくしが大学を去ったのは、昭和三年、先代荒木教授の頃です。それから、まさに二〇年ぶりの帰郷ともいえます。一〇年一昔といいますが、変化の激しい現代、二〇年は二昔どころでなく、千葉と大学のこの変貌に、小野田少尉のようにすばやく巧みに対応できるかと心もどなく感じたりもしています。

精神医学の世界も、この二〇年間は激動の時代で、医療の理念、技術、体系が大きく動揺し変貌する中で、さまざまなきしみもみられるのが現況のようです。

戦時中荒木教授が、今は病理の時代だといわれたことが、ふと懐しく思い出されるのも年頃故としますが、とらわれることなく謙虚に訴えをきくことが、臨床医学の出発点であったことを想起し

て、この新しい仕事に励みたいと思っております。

伝統あるこの教室の明日の発展のため、特に同窓のみな様の、御指導、御鞭撻をお願いする次第でございます。

佐藤 壹三

佐藤教授は大正10年生。昭和21年本学卒。32年銚子市立病院院長、42年に国府台病院に移り去る7月1日付で教授就任まで副院長をつとめられた。

ゐのはな東京美術展・今秋開催予定

白鯨社、という絵画同好会は本学ですでに五十年近い歴史のある文芸運動の一つである。活動に消長はあるが今日もなおこの名は同窓会で知らぬ人はいないだろう。

このほど東京ゐのはな同窓会が中心となり関東一円の「絵をかく同窓医師」の協議で今秋を期して東京新宿のギャラリーで「美術展

」を開催することになった。

白鯨社OBはもとより同好の士の多数の参加を期待する。

絵画一十号以下、一名二点まで
彫刻一名二点まで
書一名二点まで

詳細の問い合わせは左記に……

- (1) 東京都豊島区池袋二一二 東京ゐのはな同窓会長嶋田宗之
- (2) 埼玉県秩父市上野町二〇一八 嶋田通夫
- (3) 東京都豊島区雑司ヶ谷二一五 村上正中

静岡ゐのはな会

八月二十一日に開催

大塚三八雄支部長よりの連絡によりまず、静岡ゐのはな会が8月21日(土)午後2時より沼津駅前沼津軒(電話〇五五九一六三〇八一)にて開催されます。本号の配布が間に合うかどうか気になるりますがお知らせ致します。

加賀谷凡秋先生 七回忌

- 汐けむりして
- 夏の日のかかりけり
- 夕顔の命長しと思ひけり
- しらじらと
- たうもろこしの花吹かれ

次々とこうした俳句を思い出している。「やあ、君、元氣かね」とどこからか凡秋先生が現れそうに気がなるのだが、はやくも去る六月三十日で七回忌を迎えた。六

鈴木五郎ゐのはな同窓会名誉会長の喜寿の祝開かれる

去る五月二十三日(日)、船橋三田浜楽園で鈴木五郎先生の喜寿の祝が第一外科同門会有志の主催で催された。当日はごく内輪の催しであつたにも拘らず県内はもとより、遠く静岡方面から一外同門、一外科に勤務していた看護婦など三十六名が集い和気あいあいのうちに往時の話に花が咲いた。

若かりし頃の先生は今の先生からは想像もつかない程厳しい面もお持ちであつたことや第二次大戦中の数々の苦勞話などが紹介された。平均寿命が延びたとはいえ、健康で喜寿の祝を迎えると云うことは容易なことではない。先生の健康の秘訣は己に厳しい生活態度と乗馬にあると拝察される。最後に先生の御健康を祈って止まない処である。

千葉医学会学術大会は来る十一月十三日(土)に開催

本年度の千葉医学会学術大会は十一月十三日(土)午後二時三〇分より医学部病材示設講堂で開催される。肝炎が重大問題となつて

いる折から、その道の權威である、東北大学医学部の石田名香雄教授の特別講演、本学内科の奥田邦

編集後記

● かなかなをきいていて誰かに便りをしたためたくなつたら、数行でもよいその場で書いてみたらどうでしょう。ゐのはな同窓会員の間にそんなことが気軽に行なえるようになったらこの会報もいらないかなとも知れませんが。

● この号の後記にまたも悲しいお知らせを書かなければなりません。七月十三日、大塚会長夫人が急逝されました。七月十八日には茂原の君塚正芳(貞夫)先生(昭7卒)が他界されました。つつしんで哀悼の意を表します。

● 会員名簿ができています。予約をされなかつた方でも送料込み二千円でお求めになれるそうですから医学部庶務係気付、同窓会事務局に御連絡下さい。一部の名簿訂正が印刷中に到着して間に合わなかつたクラスがあるそうで係がかわびていますが近く訂正版が出来るようです。

● お陰様で定期刊行が守られています。年四回しか出さないのに毎月編集会議をやや些細なことを積み重ねているのがよかつたようです。内容はだんだんよくなります。もう少し時間を貸して下さい。

(村山)

次号(六十号)は十一月末に発行の予定です。